

地域おこし協力隊と 関わって感じたこと

鯛飯の宇和島市から
きりたんぼ鍋の大館市へ

大館名物比内地鶏を
千羽焼く「比内とりの市」



私は、3年半にわたる宇和島市地域再生マネージャーの任務を終え、現在は、秋田県大館市で月一回、3日〜5日程、千葉県市川市からの通いで活性化のお手伝いをさせて頂いています。特に女性や、地域おこし協力隊と関わりながら地元の元気を引き出すのが主な役目なのですが、逆に、地元

のお母さんたちから折れない心や、やり通す粘り強さ、チャレンジ精神、柔軟な発想を学ばせていただきながら活動している状態です。今回は通いということもあり、住民との交流時間が非常に短く、本来、地域再生マネージャーは地域密着型であるべきだと思っ

大館市と宇和島市は東と西で大きく離れていますが、共通点も多く、人々は穏やかで温かく、東北の方は寡黙な方が多いと勝手に思い込んでいましたが、意外と（失礼！）笑いのセンスがあり、軽妙な言葉のやり取りで会話を楽しんでいます。多分雪で覆われる厳しい冬の長い間を、楽しく過ごす術を昔から自然と身に付けているのかもしれない。また、自然条件にも恵まれ、食べ物も非常においしく、特に比内地鶏、きりたんぼ鍋、あきたこまちは噂以上で、地元の方の自慢の種です。私の目下の身近な問題は、地元の方同士でしゃべる

秋田弁が時々意味不明なことでしょうか。

地域おこし協力隊を支える人は？

大館市の地域おこし協力隊は現在4名で、一昨年の12月から2名の男性、昨年の10月から女性1名男性1名が加わりました。2名でひとつの地区を担当する仕組み



3年生5人の卒業式を
録画する南の島の女性隊員

なっています。全国に募集を掛け応募した人の中から、面接し選ばれた隊員で、年齢も20代から40代まで幅があり、経歴、職歴も地域活性化への考え方も様々で、同じ地区で2人足並みを揃えて活動することは、

なかなか難しいところもあるようです。

市としては、隊員の活動に枠をはめず、地区住民と十分話し合いながら、地域の課題を確認し、一緒に課題解決に向け、地域にあつたやり方で好きなように

活動してもらいたいとの意向なのですが、「どうぞ自由勝手にやってくださいね。」との「善意」のメッセージが、市から「突き放されている。」と協力隊に受け止められるところもあり、なかなか思うようには相互理解が進まないと感じます。隊員の「市の方向性が明確でなく動きづらい。」「市は、何もしてくれない、もつとバックアップしてもらいたい。」との思いと、「まず、隊員が地区に深く入り込み、住民主体で動き出したところで、必要な支援をしますよ。」との行



大館市地域再生
マネージャー
小林 詳子

阿智村の地元商店の掘りごたつで
くつろぐ大館市の隊員



政サイドの考え方のギャップが地域おこし協力隊活動の一つの心の壁になっていくところもあるように見受けられます。メルでのやり取りは誤解を生むこともあるので、現在は月に一回、市と隊員が直接顔を合わせ、活動状況報告と今後の予定、情報提供、意見交換等が行われ、相互理解と円滑な業務遂行への努力が続けられて

いる状況です。確かに、協力隊員の立場になってみると、誰も知らない縁もゆかりもない地方の村に行つて住みつき、「自由にやれ！」と言われても、何からどうやって手を付けていいのかと途方にくれ、心細く思う時もあるかと思ひます。そんな時なんでも気軽に相談でき、伴走してくれる「兄貴」あるいは「姉」のような存在が、身近にいればきつと心強く、前に進む勇気もでてくるのではないかと思います。どうも隊員からすると市役所は敷居がちよつと高いようですので、特に

初期には、必要な時そばにいて一緒に悩み、汗を流してあげられる存在の必要性を感じます。

**自分の得意技を活かして、
小さなことから輪を広げる**

現在、男性隊員の一人はプロにそば打ちを習っており、今年はその若者数人とそばを栽培する計画で、「そば」を核に動きはじめています。また、女性隊員は数年の韓国滞在経験から得た、キムチ等の韓国料理や、ハングル語を武器に地元との絆を深めていっています。

2月下旬に、長野県阿智村の地域おこし協力隊活動の視察にいった際には、村は「協力隊にお任せしている。」と言い、隊員からは「あまり方針等を打ち出されるとかえって動きにくくなる場合もある。」との発言もあり、定住・起業を目指してそれぞれの個性とやり方で頑張っている様子に大館市の隊員も大いに刺激を受けたようでした。また、私が南の島で活躍している女性隊員を訪ねた時は「行政は任せているというより、無関心。」と笑って話し、島を縦横無尽に車で走り回り、わずか一年足らずで地



古民家を再生し地元民が
集まれるカフェを開く阿智村の隊員

元民の信頼を得ながら、数年後の自分の生業を見据え、着実に駒を進めているに姿に頼もしさを感じました。あまり考えすぎないで、まずできることからコツコツと行動することが大切なのですね。

今後の事業に望むこと

今後、地域おこし協力隊の事業に対して提案したいことは、行政から課せられるテーマはそれぞれ異なるかもしれませんが、ある程度、派遣前に地域づくりの基本的知識やスキル、例えば①ファシリテーターの基本的スキル②日本の地方都市の現状等の基本知識③コミュニケーションの基本スキル等を研修させたほうがいいのではないかと考えます。また、隊員と地域のマッチングも非常に重要と思われるので、採用

する際には、地域住民との面接等を行い、できるだけその場所にあふさわしい人材を採用できるような工夫することも必要なのではないでしょうか。これからも、やる気のある地域おこし協力隊が、日本の地方に活力をもたらしてくれることを心から願ってやみません。